

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	橋本 雄介	学校名	千葉県 千葉市立 扇田小学校
担当教科等	算数	対象学年（人数）	5年 2組（30名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和2年6月～令和3年1月（40時間）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：総合的な学習の時間		
2. 単元(活動)名：世界とつながろう！		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「SDGsについて知り、世界の課題を自分事としてとらえ、解決に向けて自分たちにできることを話し合う。」 単元目標：世界の課題を自分事としてとらえ、解決に向けて考え、学び合う子の育成 関連する学習指導要領上の目標：年間指導計画に位置付けられている、国際理解の領域の学習。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	世界には先進国と発展途上国があるということ、SDGsの内容や目的について理解している。
	②思考力、判断力、表現力等	各国の課題やSDGsを自分事としてとらえ、自分たちにできることは何かを判断している。
	③学びに向かう力、人間性等	日本を含む世界各国の課題を自分事としてとらえ、自分たちにできることを広めたり、課題解決に協力したり、進んで取り組もうとしている。
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<b>【単元設定の理由】</b> 児童は自分の日常で見たものや、学習の経験から学んだことは認識していたが、世界で起きている問題や抱えている課題については、知らないことがたくさんあった。SDGsについて知っている児童もほとんどいなかったため、設定した。 <b>【単元の意義】</b> 第1次では自分の興味のある国の基本情報や特色を調べる活動を通して、世界には様々な国のよさがあるということを理解させる。第2次では、開発途上国やSDGsについて知るとともに、各国の課題と解決方法について考えさせる。開発途上国に行ったことのあるゲストティーチャーから現地の現状を聞いたり、教師が作ったプレゼンを見せたりすることで、各国の課題解決から、よりよく課題を解決するきっかけを与える。 <b>【児童/生徒観】</b> 世界では様々な問題が起きていることは知っているが、開発途上国にできることについては、思いつかない児童が多かった。また、洋服や水、食べ物などの物資やお金を寄付することなど一時的な解決策が多く、もの作りや農業のやり方を教えるなどの、長期的な開発策はなかなか出てこなかった。 <b>【指導観】</b> この単元で持続可能な社会づくりについて考えることを通して、世界の課題に対して自分にできることは何かを考えさせた。また、各課題に対する目標は国によっても違ふし、人によっても捉え方が違ふので、協力して広めることが大切であることに気付かせる。	

6. 単元計画 (全40時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1   4 5   13	世界に興味をもとう!	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の国々の文化や特色を知り、自国との比較をしながら互いのよさに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットや資料集で世界の人口や国旗、宗教や文化などを調べてノートにまとめる。</li> <li>自分の興味をもった国の特徴や文化、魅力や課題をインターネットで調べ、プレゼンの資料を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネット</li> <li>社会科教科書資料集</li> <li>本</li> </ul>
14 15	興味のある国を紹介しよう!	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界には様々な国があり、それぞれ魅力があれば、課題もあるということを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の調べたことを4・5人のグループに分かれてプレゼンで発表し合い、感想や助言を伝え合う。→ふりかえり</li> </ul>	
16   19  20   32	世界の課題を自分事してとらえよう!	<ul style="list-style-type: none"> <li>先進国と開発途上国という言葉を知り、どんな国があるかを調べる。</li> <li>SDGsの存在意義を知る。</li> <li>各国の課題を見つけ、解決目標を表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師が作ったアフガニスタンの紹介資料やゲストティーチャー(キルギスに行ったことのあるJICA隊員)の話聞いて、世界にはどんなSDGsが必要で自分たちに何ができるかを考える。</li> <li>世界にはどんな課題があるかを調べ、SDGsのどの目標が必要かを考え、プレゼン資料にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JICA東京千葉デスクの木村明日美による講演・ご指導「キルギスの実態課題から、私達にできること」</li> <li>「自分ごとからはじめようSDGs探求ワークブック～旅して学ぶサステイナブルな考え方」</li> <li>「未来の授業 私たちのSDGs探求BOOK」</li> </ul>
33 <b>本時</b>  34   40	世界の課題について発表し合おう!	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの国の課題やSDGsの目標についての考えを広げたり深めたりする。</li> <li>友達の意見をもとに、それぞれの国の課題やSDGsの目標についての考えを広げたり深めたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間発表をし合い、ふりかえる。</li> <li>パワーポイントや発表の仕方について議論するよりも、国の課題やSDGsの目標についての質問を重視させ、考えをより深める。</li> <li>友達の発表を聞いて知ったことやもらったアドバイスをもとに、より深いプレゼン資料を作成する。</li> <li>一人ずつみんなの前で発表する。</li> <li>自分でたてた「自分にできること」ができているかをふりかえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネット</li> </ul>

7. 本時の展開（33時間目）			
本時のねらい： <ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよいプレゼンをするために世界の課題やSDGs、自分たちにできることを考えて説明することができる。（思考力、判断力、表現力等）</li> <li>・日本を含む世界の問題を自分事としてとらえ、自分たちにできることを考えようとする意欲をもつ。（学びに向かう力、人間性等）</li> </ul>			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
<b>導入</b> (3分)	1 前時までの学習を確認する。 ・国の課題を伝える。 ・国が目指すSDGsを伝える。 ・自分にできることを伝える。  2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             よりよいプレゼンにするには、どうすればよいのだろうか。           </div>	○ただの国の紹介ではなく、各国の課題とSDGs、わたしたちにできることを考えてきたことを確認させる。	・黒板掲示
<b>展開</b> (39分)	3 教師のプレゼンを聞き、聞く側の視点を確認する。 ・SDGsを使って説明した方がよい。  4 三、四人のグループで発表し、プレゼンがよりよくなるようにアドバイスし合う。 ・水がないということは、飢餓の心配だけではなく健康や教育にも影響がでるんじゃないかな。  5 グループで話し合われた内容を全体で共有し、考えを深めたり広げたりする。 ・「②飢餓をゼロに」を達成するためには、世界中の人に広めることが大切だという意見をもらいました。	○発表の仕方だけではなく、国のSDGs、私たちにできることが明確かどうか注目させる。  ○3分以内で発表→アドバイスの順に繰り返させる。 ○世界の課題からどのSDGsが必要で、自分達に何ができると考えているのかを読みとらせる。  ○グループで話し合われたことを全体で集約し、SDGsに対して自分達にできることが持続可能かどうかについて考えさせる。	・PC  ・PC ・プレゼン原稿 ・ワークシート
<b>まとめ</b> (3分)	6 今日の学習を振り返り、発表に向けてこれからのめあてをたてる。 ・1つの課題から様々な視点で目標を考える。	○次のプレゼン作成に向けてやるべきことを確認させる。 ○発表の仕方やパワーポイントの内容ばかりではなく、各国の課題やSDGs、自分たちにできることについて書かせる。	・PC ・ワークシート

<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <p>◇日本を含む世界の問題を自分事としてとらえ、自分たちにできることを考えようとする意欲をもつ。 (学びに向かう力、人間性等)</p> <p>◇世界の問題について自分たちにできることを考え、説明することができる。 (思考力、判断力、表現力等)</p>
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <p>各国の課題はそれぞれ見つかったものの、課題に対して私たちにできることについて「ごみを拾う」や、「給食を残さず食べる」等の答えしか出てこなかった。児童の考えを深める手立てについて、JICAの夏の研修で他の協力隊に相談し、千葉デスク木村明日美さんがゲストティーチャーとして参加してくれることになった。</p> <p>開発途上国に行ったことのあるゲストティーチャーから現地の現状を聞いたり、教師が作ったプレゼンを見せたりすることで、各国の課題解決から、よりよい解決策を考えるきっかけを与えた。</p>
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <p>研究授業を校内の先生方に参観してもらい、教員間のSDGsへの知見を高めるとともに、国際理解の授業展開例を提案した。</p> <p>人権週間と関連させてSDGsのポスターを掲示して、啓発活動に努めた。</p>

### 【自己評価】

11. 苦勞した点	各国のSDGs達成率について、学級で調べ学習をしたが、有力なサイトがアクセスできず、校内のインターネットで調べるには限界があった。
12. 改善点	授業の振り返りとしては、「プレゼンをよりよくする」という学習問題ではなく、内容にせまる学習問題をたてるべきだった。発表の仕方について議論するのではなく、SDGsや私たちになにができるかという内容について、さらに深く話せるようにできればもっとよかった。
13. 成果が出た点	調べる時間を確保したため、一人一人が各国の現状や課題について理解し、友達に広めることができた。まずは自分たちにできることを考えることで、世界の課題を自分事として考えることができた。
14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べていくうちにどんどんその国について詳しくなっていた。</li> <li>・自分たちにできることを実践するようになった。</li> <li>例) ・給食の残飯が減った。・紙の無駄使いが減った。</li> <li>・SDGsの掲示物を教室に掲示することで、社会科で環境問題について考える授業など、他教科で学習する時もSDGsに繋がっていることを確認できた。</li> </ul>
15. 授業者による自由記述	今回の研修(4月から授業実践まで)を通して、自分自身が世界の問題を自分事としてとらえることができた。最初は私も他の教員、児童もSDGsの存在すら知らなかったが、活動や授業を通して考えるきっかけとなった。また、SDGsは社会科の地理の学習以外でも、様々な産業の学習とも関わっていることがわかり、日本を客観的にみることも可能だと気付いた。

参考資料：・「自分ごとからはじめようSDGs探求 ワークブック～旅して学ぶサステイナブルな考え方」  
・「未来の授業 私たちのSDGs探求BOOK」